

第 413 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 7 年 7 月 1 日 (火) 11:00～13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取講評 [番組名] K-MIX Slow-City
[放送日時] 令和 7 年 6 月 20 日 (金) 11:30～14:00
4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康
委員 加藤裕治 委員 小野晃司 (4 委員/6 委員)
[会社] 代表取締役社長 井熊正浩
編成制作部専任部長 鈴木秀明
編成制作部副部長 原壮俊
5. 事務局報告 ○ K-MIX 第一四半期の報告と上半期の現在の見通しについて
6. 番組審議
[番組名] K-MIX Slow-City
[放送日時] 令和 7 年 6 月 20 日 (金) 11:30～14:00
[出演者] 牧村 一穂
[番組内容] 入社4年目を迎えるパーソナリティの牧村一穂が、
さわやかで心地よい雰囲気でお届けする2時間半の
生放送。
仕事・家事に追われる大人の方に向けて、
トレンドや音楽などをゆったりお届けします。
防災士・看護師の資格を持ち、アイドル好きの牧村
ならではのコーナーも放送予定！

[聴取・合評での主な意見]

角田副委員長 パーソナリティの牧村さんに貫禄が出てきており、落ち着いて、
安心感があり、番組進行にずれがない。よいキャリアの積み方を
している。トークについては、例えば、番組内の原稿読みの箇所と
フリートークの部分の差やフリートーク部分での牧村さんが担当
している他番組との差別ができていない所等、これからの改善点も
見られる。また、当日の話題に対する準備の丁寧さもまだまだ開拓
できる余地があると思う。

全体的には、いつもの、聴取者に耳なじみの牧村さんの域内に
収まっていると感じるが、
パーソナリティの推しの強さと番組コンセプトのより深い理解
を練り上げて行くという将来に対しては、期待ができる新番組
であると思われる。

加藤委員

ラジオの常道と言われる「聴取者参加型」の番組に対して、「情報性」を前面に押し出したこの番組は、ある意味、実験としての要素を感じる。そう考えると、11：30～14：00 という2時間30分の番組の長さが、少し障壁となっているのではないか。コーナーが多く番組時間自体も長いというのが現状の感想である。例えば、情報を使いながらの「マーケティング情報エンタメ」型にするなど、聴取者が求めている（番組の主観ではない）客観的な情報や聴取者の体験報告紹介、専門家のハウツウ伝授といった仕立て方をしてみる等をしてみてはどうだろうか。これからの番組の方向性如何で将来に大きな期待を抱かせる番組であると思う。

小野委員

牧村さんが落ち着いて原稿を読む所は、良い雰囲気だが、時折現れる素のトークの部分では、例えば以前担当していた午後の番組での、バカボン鬼塚さんとのトークの時のようなキャラクターも見え隠れし、番組のカラーがぼやけてしまう場合がある。

牧村さんには、相手によって自分の個性を変えることができ、なおかつ、最終的にどちらかに偏らない立ち位置に戻ることができる知性を感じるので、誰かと組んだり、自分を柔軟に表現する平和なやさしさを標榜する番組が合うのではないか。

木宮委員長

「さわやかで心地よい雰囲気でお届けする2時間半」「仕事・家事に追われる大人の方に向けて、トレンドや音楽などをゆったりお届け」というコンセプトが番組の内容に合っているのか。Slow-City というタイトルからは、コーヒーを飲みながらゆったりと聴いてほしい番組という雰囲気を感じるが、とすると「防災」「ビジネス情報」は番組の要素に必要なものなのか。必要だとすれば表現方法に少し工夫をしてみてはどうだろうか。パーソナリティの牧村さんにはいわゆる常道のラジオ番組が最適だと思うので、例えば、番組のコンセプトを重視するのか、牧村さんの存在を重視するのかといった観点から、今後の番組の流れを決めていっても良いのではないだろうか。

今後の発展の要素がたくさんある番組であると思われる。

会社サイド

先日行われたあるセミナーの講師が、ブルートゥースイヤホンがこれだけ普及している中で、耳を占有するラジオには今、追い風が吹いている。という発言をしていました。現在K-MIXに求められている要素を集計すると1位が情報、2位が音楽となっています。

音声コンテンツが重要視される今、この番組が聴取者の耳を占有できるかどうかは今後の重要な要素と考えます。

今年度の4月に始まったこの番組を、今後とも大切に育てて行きたいと考えます。

以上

次回開催日 令和7年9月2日(火) 11:00～13:00を予定

番組審議会委員長

木 宮 敬 信